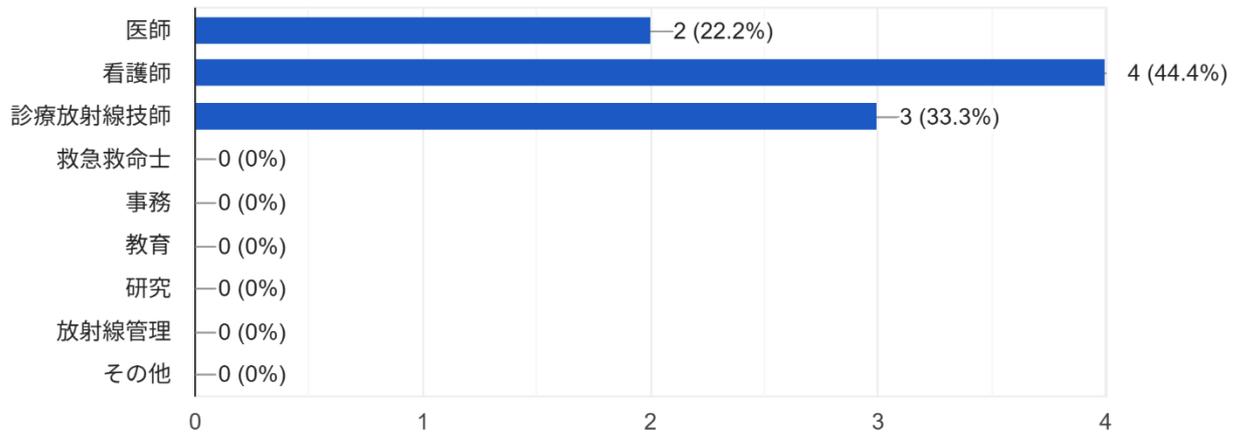


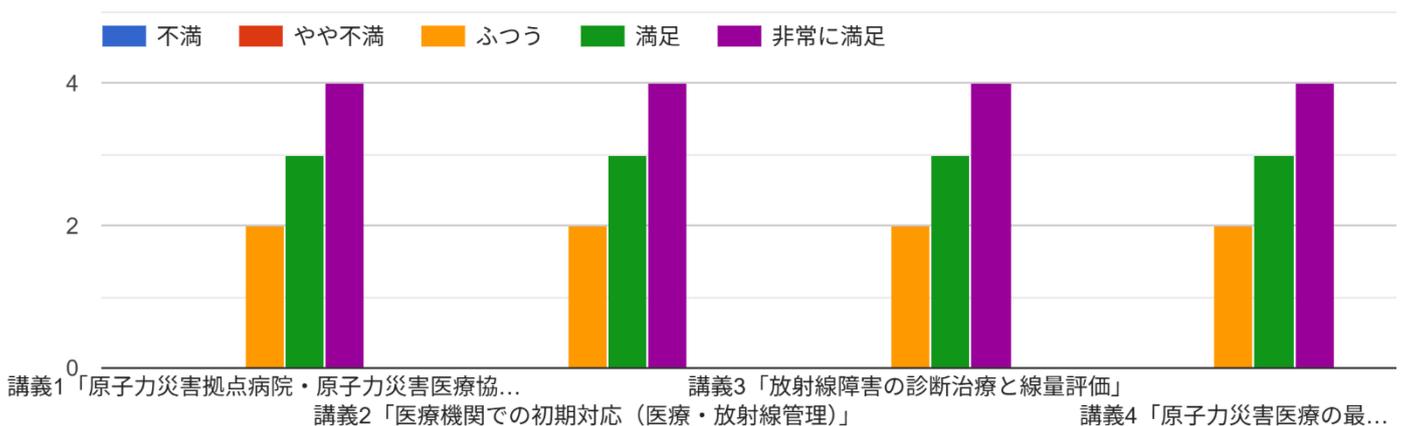
1. 研修日時: 令和7年11月22日(土)
2. 開催場所: 福井大学高度被ばく医療支援センター
3. 研修参加者: 12名
4. アンケート回収人数: 9名(有効回答率75%)
5. アンケート結果

専門をお選びください(複数選択可能)

9件の回答



講義1「原子力災害拠点病院・原子力災害医療協力機関の立ち位置と役割」について入力ください



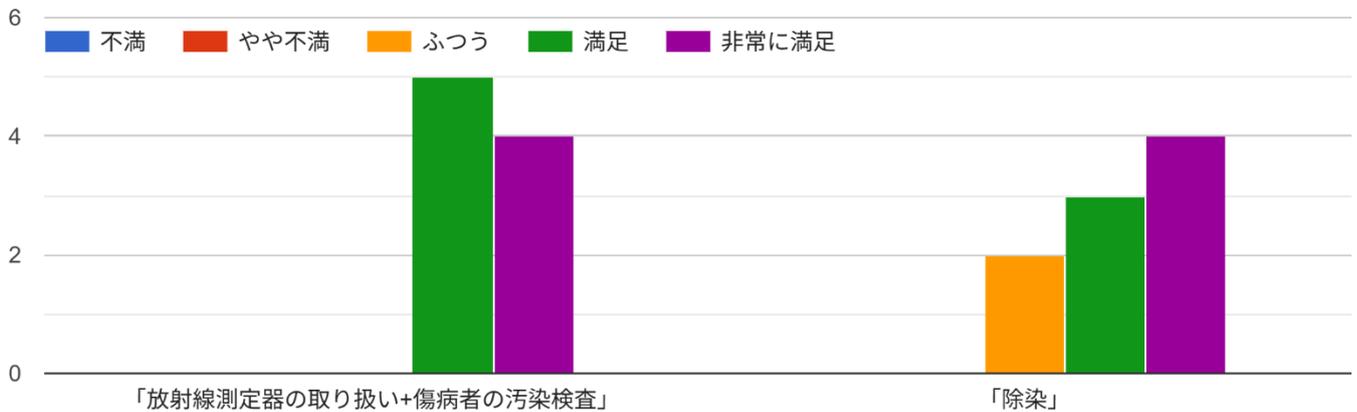
講義1「原子力災害拠点病院・原子力災害医療協力機関の立ち位置と役割」についてお気づきの点がございましたら入力ください 0件の回答

講義2「医療機関での初期対応(医療・放射線管理)」についてお気づきの点がございましたら入力ください 0件の回答

講義 3 「放射線障害の診断治療と線量評価」についてお気づきの点がございましたら入力ください 0 件の回答

講義 4 「原子力災害医療の最新動向（指針・ガイドライン等の update 情報）」についてお気づきの点がございましたら入力ください 0 件の回答

要素実習「放射線測定器の取り扱い+傷病者の汚染検査」と「除染」について入力ください



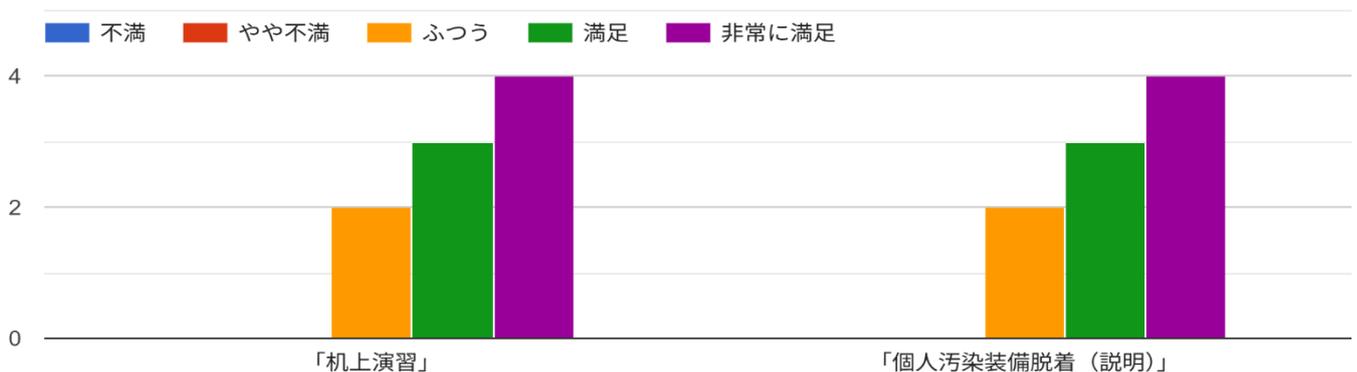
要素実習「放射線測定器の取り扱い+傷病者の汚染検査」についてお気づきの点がございましたら入力ください 2 件の回答

・放射線測定器の取り扱い・傷病者の汚染検査では中々汚染個所の同定するのが難しく大変ためになりました。GM サーベイメータの取り扱いの際に一般人のスクリーニング方法の講義をもう少し丁寧にしてもよかったのではと思う。スクリーニングの際は手荷物や車いすを測定したり、靴裏の測定も重要になってくると思いますので…（技師目線からですが）

・線量測定は貴重な体験でした。汚染部位探すの楽しかったですし、有意義でした

要素実習「除染」についてお気づきの点がございましたら入力ください 0 件の回答

「机上演習」「個人汚染装備脱着（説明）」について入力ください



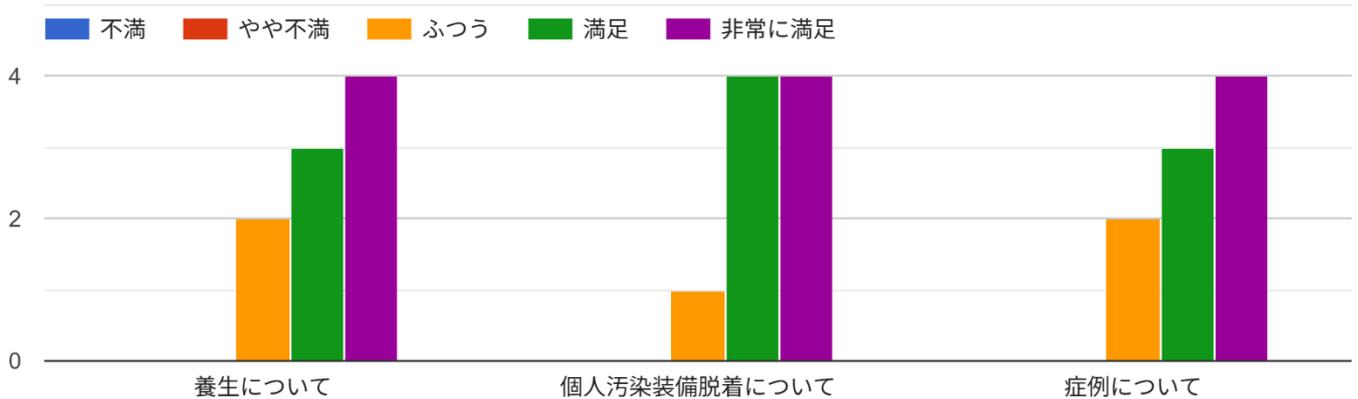
「机上演習」についてお気づきの点がございましたら入力ください1件の回答

・実際派遣スタッフとして参加すればその場で、スクリーニングや除染ブースを設営しなければならないのですが、机上演習での想定エリアが広大で、ちょっと迷ってしまった。限られたエリアの方がゾーニングを考えやすいのかも…

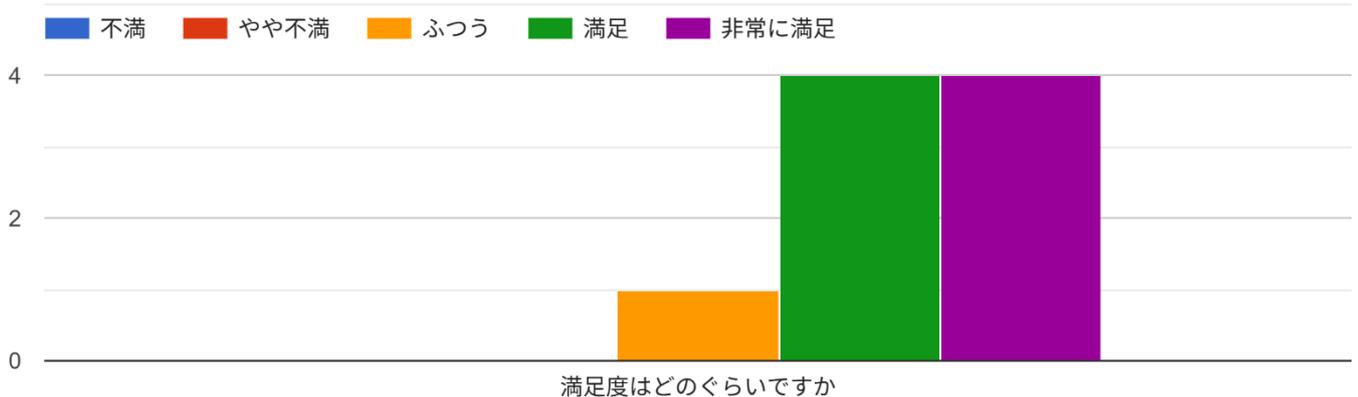
「個人汚染装備脱着（説明）」についてお気づきの点がございましたら入力ください1件の回答

・フェイスシールドと眼鏡の『曇り止めシート』の活用がとても効果的で、ぜひ当院でも活用していきたいと思いました。

「被ばく・汚染傷病者対応」について入力ください



研修全体についてお答えください



本研修の感想をお聞かせください9件の回答

・楽しかったですが、いくつか発言をお許してください。1、傷病者対応実習の際、インストラクターの方が話しかけてくる、知識を問うてくるのはまあいいのですが、こっちはロールプレイやってテンパってるところにいちいち本筋とはずれてる(と感じられる)知識を問われるような質問をされプレイを中

断されるのはストレスでした(そんなん、終わってから言うてくれやって感じでした)。2、同じく傷病者対応につきまして、各組織での研鑽や修練、のみではスキル維持はどうにも対応は困難なのは明らかと考へます。先日の当院の訓練でも感じましたが、徹底したマニュアル化、ハウツーを分かりやすく記載した掲示物の充実、など、『たいした訓練などなくともこれを見ときゃ出来る』みたいなマニュアルや掲示物を作成なさってはいかがでしょうか？特に除染の仕方、汚染検査、検体の取り扱いについて、です。

- ・GMの使い方、実習における技師の動き方などを再確認することができた。
- ・過密なスケジュールでしたが非常に充実した研修会でした。
- ・養生から考へてできたのが面白かったです。線量と影響については知識を深めないと患者説明ができないなと思っていました
- ・講師の説明がわかりやすかったです。もっと実習時間があると良いと感じました。
- ・一日長丁場の研修ではありましたが、講師・受講者ともコミュニケーションを密にとり、和気あいあいと楽しみながら研修ができて、あっという間の時間でした。他の講習会の良いところのアドバイスや講習内容でとても良かったと感じています。福井大学の皆様、このような機会を作っていただきありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・タイムスケジュールが的に沢山あったので、基礎的座学は事前に視聴し、症例の実習に時間をしっかりとれると良いと思いました。ありがとうございました
- ・ちょうど2日後に富山県での観覧もありましたので。非常に有意義でした。

以上

第1回中核人材技能維持研修（福井大学） 令和7年11月22日（土）開催

振り返り実施日（話し合い日）12月5日、8日

研修名	スタッフ振り返り・意見	オブザーバーご意見	話し合った内容・改善点
講義	<p>・e-Leaning化すれば、実習時間を確保できるようになるかもしれません。</p>		<p>・会場配置に問題はなかった。今後受講生が増員された時には、配置の再検討が必要と考える ・木村医師が担当する講義について、来年度からは後進育成も視野にいれて、秦医師・神川医師に講義担当を依頼することを考えていく</p>
実習1 (放射線機器の取り扱い+ 傷病者の汚染検査)		<p>・取り扱いの講義では、実例を交えての講義で大変分かりやすく、興味を持って聞かせていただきました。 「今回の研修で使用されていた『受講生+ラジウムボール』や『マネキン+マントル』を用いた汚染検査の実習は、とても興味深く、本学でもぜひ参考にしたいと感じました。（ただ、本学では講師の確保が難しくなかなか実現しないかもしれません） また、サーベイメータの取り扱いについて、本学では『首にかけた状態で手を離さないように指導する』（断線や汚染のリスクを避けるため）というポイントがあります。今回の研修では、マネキンを動かす際にサーベイメータを首から下げブラブラした状態になる場面がたまたまあり、少し気になりました。安全面の観点から、こうした点に配慮いただけるとさらに良いと感じました。</p> <p>○受講者を2班に分け、①受講生に「ラジウムセラミックボール」を忍ばせた汚染傷病者役と測定者役でお互いで汚染検査の実施と、②マントルを仕込んだマネキンの汚染検査を実施されていた。本学においても②については行っているが、①の実施において受講者同士生身で測定することで対象への配慮や対応の難しさが理解できて良い方法だと思いました。</p>	<p>・会場の大きさと問題なく、来年度もこの会場を使用する。 ・補助講師は2グループに1人配置で問題ないため、協力員の配置数は、今後継続していく予定である。 ・20人以上の受講生が来た場合には、人形を増やす必要がある ・受講生の中には、過去3年間にわたり測定器を一度も使用した経験がない者がいることが確認された。今後の講義においては、このような受講生を考慮し、基礎的な操作の確認を協力員等に依頼しながら講義を進めていく必要があると考えられる。</p>
実習2 (除染)	<p>・講義が頭に入っていない人がいる印象でした。久しぶりに除染を行うので、何が大切でどこを押さえればよいのか、実技の時に曖昧になっている看護師が多く見受けられました。講義か実技の時間か、もう少し時間があるとよいのかと感じました。</p>	<p>○創傷部の洗浄方法など中核人材研修で習得している創部の外側から内側に向かって洗浄する（この部分はオブザーバーの勘違いと思われる）といったことができていなかったですが、指導できていれば基本的な手技の再学習ができたのではないかと思います。</p>	<p>・受講生が12人以上となった場合、処置室2での講義実施は困難であると考えられる。そのため、来年度はトリアージにおいて講義を実施する予定である。 ・受講生主体でグループ編成を行った結果、職種に偏りが生じ、グループ間で進行具合に差が見られた。これを踏まえ、来年度はグループ分けを運営側で実施することを検討する必要があると考えられる。 ・協力員からの意見を踏まえ、実践を重視して講義を行わない方法も検討した。しかし、各施設の方針を尊重しつつ、成人学習理論に基づき受講生主体を重視する方向性で進めることとした。その結果、来年度も現行通り講義時間を40分枠とし、実施する予定である。</p>
実習3 (養生・個人防護装備着脱・汚染傷病者対応)	<p>・症例毎の時間が短かった。プレイヤーが慎重かつ丁寧に実習をすると、予想外に時間がかかることが分かった。</p>	<p>・養生→入口からホットゾーンが設定されていましたが、スタッフの動線や行き来のしやすさなど、運用面で不便さはなかったのかと個人的に感じました。 また、受講生の自施設で同様の対応を行う場合、救急隊を施設内（ホットゾーン内）まで入れて患者の受け渡しをすることが可能なのか、そのあたりの現実的な運用についても振り返りで触れていただけたと、さらに理解が深まったのではないかと思います。 ・PPE→1症例目では、HOT側の着替えが間に合わない一方で、COLD側は比較的手が空いている状況だったように見受けられました。そのため、COLD側がHOT側の着替えをサポートするなど、受講生同士で協力体制を取れるよう、講師から声かけがあるとさらに良かったのではないかと感じました。 ・傷病者対応→1症例目では、COLD医師には雑談をする余裕がある一方で、電話を受けつつ記録（クロナロや記録用紙）を1名で担当していた看護師は非常に大変そうでした。COLDには8〜9名の受講生がいたかと思いますが、A班B班合同でのブリーフィングをしっかりと行う事でより円滑にできたのではないかと感じました。また、振り返りは感想を述べるだけでなく、ディスカッションする時間が確保できればさらに理解が深まったように感じました。 ・講師の先生が具体的に丁寧に指導されていらっしゃる印象でした。全体的に和やかな雰囲気講師の先生方の雰囲気作りが素晴らしく本学でも参考にさせていただきたく存じます。また、資機材についても工夫されており、大変参考になりました。 【養生】生体モニターのコードの養生に関して、本学では傘袋をカットして繋げてコードの養生を行っており、節々になる部分でテープ固定をするため、養生を除去することに時間が掛かっている（講師が実施）。受講者に養生の除去まで指導する時間が取れないため、この点について受講者は気づいていないのかもしれないと考えております。今回の養生を拝見しロール式のビニール袋の取り扱い易さ、除去のやり易さから、本学でも取り入れたいと思いました。 ○床の養生に関して、1症例目は受講者に養生をお任せして初療室の入り口を塞ぐようにHOTゾーンが作られ、患者受け入れ時にHOTゾーンに救急隊が入り受け入れが行われていた。2症例目は講師により別ブースで事前に養生されおり、教科書のようなHOT・COLDゾーンが作られていた。HOT・COLDゾーンについては施設によってスペースなど異なるため、これが正解というのではないと思っておりますが、この施設では受け入れ時この配置が良いと判断して2例目のHOT・COLDゾーンは作られていると思っております。1・2例目の違い・理由など振り返って指導しても良かったと考えます。 【個人防護装備着脱】HOTゾーンの対応者しか個人防護装備を装着しておらず、着脱時の補助がないため受講者が手間取って、患者到着までに着脱できていない受講者もいた。COLDゾーンの受講者の手伝いがあるとスムーズだったかもしれないと思いました。COLDゾーンの受講者も腰までの着脱などをすると、全員で傷病者受け入れをする意識が高まると思いました。 【汚染傷病者対応】受講者は前回の受講から3年経って、中核人材研修の簡易版である中核人材技能維持研修を受講している。被ばく・汚染傷病者対応実習では、様々な場面で指導の必要性があると思えました。前回の研修を受講して原子力災害医療について理解している、実践できると思っている受講者に対して、次の資格更新まで技能維持できるよう正しい知識・研修効果の引き上げにつながる、指導の必要性について振り返る機会になりました。</p>	<p>・養生に時間がかかっていたため、機器やテーブル類の養生の一部を事前に実施することも検討すべきと考えられる。 ・養生に必要な物品として、ハサミが不足している様子が見られた。 ・養生に30分以上を要していたことから、受け入れの一連の流れとして養生を位置づけ、誘導する必要があったのではないかと考える。 ・机上演習ではコマンドーを決定したが、受け入れ訓練においてはコマンドーの役割を十分に果たせていない受講生がいた。 ・資機材の不足は特に見られなかったが、検体の提出数が想定以上となり、検体提出用紙が不足した。 ・症例1では、入口からホットゾーンまでろ紙を敷設していたため、救急隊搬送時に問題は見られなかった。一方、症例2では入口からホットゾーンまでろ紙が敷かれていない状態であり、救急隊役が複数回「そのまま入ってよいのか」と受講生に声をかけたものの、対応がなされなかった。症例2においては、被ばく汚染傷病者への対応として必要な方法を具体的に伝える必要があると考えられ、今後は協力員とも情報を共有していくことが重要である。</p>

研修名	スタッフ振り返り・意見	オブザーバーご意見	話し合った内容・改善点
机上演習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習3の出だしを机上演習でシミュレーションさせて、実習3の時間の確保をしてみるとか？ ・シートに書く3色のマーカーが油性だったため修正できなかったのが水性の方がいいかと思いました 	<ul style="list-style-type: none"> ・レゴブロックを使用したの演習は大変楽しい雰囲気でした。欲を言えば、レゴに「Dr」「Ns」「DMAT」等のテープが貼ってあるとよりスムーズかなと感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力員の意見を踏まえ、実習3の受け入れ訓練へスムーズに移行できるよう、診療の手順を組み立てられる内容を講義に追加することとした。具体的には、量研のカルテ等を用いたスライドを作成し、来年度より講義に導入して実施する予定である。 ・シートへの記載用マーカーについては、当初油性を準備していたが、協力員の意見を踏まえ、来年度は水性マーカーを準備することとする。 ・オブザーバーからの意見を踏まえ、来年度はレゴに「Dr」「Ns」「DMAT」等のラベルを貼付し、準備を行うこととする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学び多い研修でした。帰り際に、また学ばないといけないと思った、などの声が聞こえました。受講生にとって学びにつながっていると感じました。また、1日で完了することがありがたいとの声も聞きました。私も1日コースが良いと思います。 		